

令和6年
2024年

12月

日	月	火	水	木	金	土
1 大安 三りんぼう	2 赤口	3 先勝	4 友引	5 先負	6 仏滅	7 大安 大雪
8 赤口 こと納め	9 先勝	10 友引	11 先負	12 仏滅	13 大安 一粒万倍日	14 赤口 一粒万倍日
15 先勝	16 友引	17 先負	18 仏滅	19 大安	20 赤口	21 先勝 冬至
22 友引	23 先負	24 仏滅	25 大安 一粒万倍日	26 赤口 一粒万倍日	27 先勝	28 友引 三りんぼう
29 先負	30 仏滅	31 赤口				

師走

(しわす) 令和6年12月

一般に先生のことを「師」といい
ますが、一年の区切りの忙しい月で、
人にもものを教える先生までも走る月
という意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

天地を直す皇神のみ心を 受けて生まれし人の直霊ぞ

～ 本田親徳・靈魂百首 ～

今月のことば

天地を直す皇神のみ心を 受けて生まれし人の直霊ぞ

～ 本田親徳・靈魂百首 ～

この天地を生んだのも産霊の大神であり、更に
この天地を天地らしく、清く正しくあらしめて
る産霊の神のみ心を受けて、この世に生れて来た
人々の心を更に立派なものにしていききたいといふ
神のお差図が「直霊」の力である。

この「直霊」の力とは、その人の身心を正しい
もの、清いものたらしめたいといふ神のみ心を指
していったものである。国学の四大人の最高峰と
もいふべき本居宣長の神道観の究極も、「神道とは
直霊のみたま」のことであると記してある。(古事記
伝首巻直霊)

私共を生み育ててみてる産霊の神が、更に
私共に対し、正しい、清いものたらしめようと心
懸けられてる直霊のみ心を信じて生くべきこと
を教へたものである。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまつり

松迎 正月様迎えの 「門松が立つ」

新しい年の干支にあたる男「年木樵」
が十二月十三日、恵方の山に入って門
松用の松の木を伐ってくださることを松迎
えといひます。農耕民族である日本人
は、一年中の耕作と収穫を守る神様が
「歳神様」、「お正月様」などと呼び、正
月にはこの神様が
門松を伝って降臨
すると信じられて
いました。これが
門松の起こりです。



年の あわただしい年末に 「市が立つ」

年の暮れ、各所に正月に關係のある
飾り物や羽子板、縁起物などを売る
「年の市」が立ちます。江戸時代からさ
かんになったもので、参詣人が集まる
社寺の境内や門前などに立つようにな
りました。年末になると各地に年の市
が立って、周辺の農漁村などから、正
月の準備のために多くの人が集まっ
てきます。なかには、自分たちが作っ
た飾り物、ほうき、縁起物などを売る
人もいて、農漁業の収入を補い、正月
準備のために貴重な収入源となってい
ました。

東北地方などの年の市は、年末ギリ
ギリになってから立つので「詰市」と
呼び、市によっては、売れ残ったもの
を捨て値で売る事から「捨市」と呼ば
れています。

二十四節気

【大雪 たいせつ】… 七日

旧暦十一月子の月の正節で、もう山の峰々
は積雪におおわれ、平地も北風が吹きます。さ
で、いよいよ冬將軍の到来が感じられます。

【冬至 とうじ】… 二十一日

旧暦十一月子の月の中気で、この日、太陽
が赤道以南の南半球の最も遠い点に行くため
北半球では太陽の高さが一年中で最も低くな
ります。そのため昼が一年中で一番短く、夜
が一番長くなる極点となります。そしてこの
日から一陽来復して徐々に日脚はのびていき
ます。

六曜・選日

【六勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】… 万事凶、思えば長びくおそれあり
【大安】… 何事をするにも吉の日、大吉
【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉
【選日の吉凶】
【三隣亡】… 三隣亡、普請始め、棟上大凶日
【三りんぼう】… 三隣亡、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始
婚姻は吉、借りの、離別は凶

七十二候《12月》

冬至

初候・乃東生(なつかれくさしやうせい)
夏枯草が身をだすこと
次候・麋角解(さしかのつのおとぎ)
鹿の角が落ちること
末候・雪下出麦(ゆきわたりにてむぎのこ)
雪の下で麦が芽をだすこと

大雪

初候・閉塞成冬(せりやくむくひなせ)
本格的な冬があらはれること
次候・熊蟄穴(くまあなほこも)
熊が穴に入って冬ごもりすること
末候・鰕魚群(さけのうおむらがり)
鮭が群れとなって川を遡上すること

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに三つの候に細分
し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを
気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

縁起・縁起物とは？

縁起には三つの意味があります。
第一は、精神的な働きを含む一切の
ものは、種々の原因と縁によって生ず
るという意味です。

第二は、社寺などの成立の由来や神
仏の靈験の伝説、またはそれらを記し
た物のことをいいます。

第三は、吉兆のきざし、前兆の事を
いいます。ちよっとした出来事を吉兆
のきざしと見て、朝に茶柱が立てば
「縁起がいい」といって喜び、正月早々
病氣や怪我の話は「縁起でもない」と
いって避けるように、いちいち気にす
ることを「縁起をかつぐ」といいます。

「縁起を祝う」というのは、よいこと
があるようにと祝いをして祈ること
です。「縁起物」はよいことがあるよう
にと、縁起を祝うための品物です。

正月を迎えるにあたり、すす払いを
して、新しい神札を祀り、注連飾りを
掲げて祈り、よきお年をお迎え下さい。

いんにんじちよう 隠忍自重

耐え忍んで表にはあらわさず、
じつとがまんして軽はずみな
行動をとらないこと。



参考文献
『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

十三日は、「正月こと始め」

十二月十三日は、江戸時代中期まで
使われていた曆では、二十八宿の鬼宿
日で、婚礼以外ならすべてのことが吉
のめでたい日とされて、正月の準備を
始めるにはよいとしてこの日が選ばれ
ました。その後の改暦で日付と二十八
宿は同期しなくなりましたが「正月こ
と始め」の日付は十二月十三日のまま
伝わっています。

正月の準備を始めるにあたっては、
まず大掃除をしました。正月にはまだ
早いですが、汚れた場所を準備するわ
けにはいかなないと考えられて、ほこり
だけでなく、けがれも祓い清めて年神
様を迎えるための準備を始めました。
煤竹売りの売り声が聞かれ、竹の先
に葉のついた竹竿が天井などのすす払
い用に求められ、「こと始め」の日の
風物詩でした。

昔は、この日「松迎え」といって、
門松やお雑煮を炊くための薪に必要な
木を恵方の山に取りに行く習慣があ
りました。

安産祈願 12月の戌の日

12日(木)
24日(火)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をして
あります。神社にお問い合わせください。

祝祭日には
国旗を掲げましょう